

佐久市佐久つと支援金事業 自己評価報告書

評 価 日 5 年 3 月 30 日

団 体 名	特定非営利活動法人 うすだ 美図				
事 業 名	孤立という病を地域で改善する社会的処方実験プロジェクト				
事業経費③	184,000	187,124 円	支援金額⑨	90,000	170,000 円

事業の目的・内容	地域の課題
	<p>地域内の高齢者の6人に1人は孤食。誰とも口を聞かない日が1週間の内に1日はある。社会との繋がりが少なく、心の健康と身体を健康を損なう原因になっている可能性がある。</p>
事業内容	事業内容
	<p>令和3年度サポートセンター主催の地域まるっとキャンパスでの協力団体として、佐久大学の学生18名と社会的処方をテーマに活動した中で、ゼロベースから企画立案したものを具現化させる事により、若い世代を地域へと巻き込み地域の課題を机の上だけではなく、実際に体感してもらう。また、高齢者には学生との交流を持つことでコロナ禍の中、鬱々とした状態に少しでも楽しみを持って貰おう。</p>

事業の活動実績	<p>地域まるごとキャンパスの受け入れ団体として参加。昨年度学生主導で出来ていた企画案をベースに新たな学生チームと再考した。テーマに即した、シニア世代との多世代交流会を実施した。内容は大きく分けて4つ。</p>
	<p>①全員であいうえお自己紹介（指定した五十音の言葉を使って自分の自己紹介をする） ②佐久病院で若月俊一先生が予防医学の見分を広める為に使っていた、健康カルタを再現。そのカルタで、実際に遊ぶ。 ③ワードウルフで遊ぶ。（犯人あてゲームをグループ毎に行う。） ③デジタルゲーム「ツムツム」をダウンロードから説明し、一緒に遊ぶ。 ④綿菓子をつくり皆で食べ、親睦を図る。</p> <p>学生さん募集⇒6月 企画会議⇒7月・8月・9月（オンライン1回） チラシデザインチーム会議⇒8月・9月（オンライン1回） 9月⇒イベントリハーサル。本番⇒10月2日</p> <p>*脳トレに使えないか、または遠く離れたお孫さん達とゲームを通じて交流を密にできないか昔の遊びを通して交流を図る。一緒に綿菓子を作ったり、駄菓子を食べたり等。実際に高齢者と交流を持つことで、生のお声を聞きこれからの学びに役立ててもらいたい。</p> <p>企画側の大学生募集に関しては佐久サポートセンターや、佐久大学の先生を通して募集をかける予定。イベント参加者の募集方法等に関してはチラシやSNSを通して周知する。企画から実施に至るまで一連を通して体感して頂く。</p>



別記様式第5号（6の2関係）〔2枚目〕

事業の成果・効果	<p>昨年に引き続き、佐久市市民活動センターが行っている地域まるごとキャンパスの受け入れ団体として参加した。野沢北高校の探求の時間で、デジタルのゲームを使った高齢者に向けての取り組みをテーマに掲げている学生5名、当団体のテーマに共感してくれて参加を決められた小海高校の学生1名、地球環境高校の学生1名の合計7名の参加があった。学生達が自ら立てた仮説を実際に検証する場の提供になれたと思う。地域課題の体感もしてもらえ、学生達自らの企画を具現化する事によって様々な学びを得て貰えたと思う。</p> <p>また、高齢者側の参加者からは、コロナ禍でサークル活動が次々中止となっていき、外に出るきっかけが無くなって人に会ったり、外出する機会が極端に減っていった。実際に行動規制が緩和されても逆に外に出る事が億劫になり、中々外に出る気力がなかったとの事。今回は若い人が頑張ってるからと、自分も頑張ってみて参加してみたが本当に良かった。今後はもっと外に出てみようと思うとの嬉しい感想も頂けた。</p> <p>この様に、高齢者にとっての外出のきっかけとなる、よい企画だったと思う。イベントである為、どうしても一過性のものになりがちではあるが、高齢者が外との繋がりを持つとするきっかけづくりには多いに貢献できたと思っている。</p>
----------	---

自己評価	事業は申請どおり実施できた	<p>1 できた <input checked="" type="radio"/> 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p> <p>当初の予定していた、昨年参加して下さった、大学生の参加が見込めなかったが、それをのぞけば概ねできてる。（大学生参加者募集が感染レベル5下で、掲示や集客活動を大学から断られた。）</p>
	事業の実施によって、期待した効果をあげることができた	<p><input checked="" type="radio"/> 1 できた 2 概ねできた 3 あまりできなかった 4 ほとんどできなかった</p> <p>自己評価を記入</p> <p>単発なものであったものの、地域の方々へ今後の活動の方向性を見出す企画であったと思う。次に繋がるものができた。</p>
	実施計画書と実績報告書の活動費の内訳について	<p>1 ほとんど同じ 2 多少の変更があった <input checked="" type="radio"/> 3 大幅に変更している</p> <p>主な理由（2、3と答えた場合のみ）</p> <p>①参加者募集の告知を佐久大学構内でしようと思ったが、コロナの関係で、掲示が不可となり当初予想していた大学生の募集が壊滅的となってしまった。②学生との企画段階で地域の名物を食しながら親睦を深めるとの案が出た為、追加になった経費がある。</p>
	その他、評価すべき点等	<p>高校生へも地域課題を体感してもらえた点、デジタルゲームが脳トレに良いとの仮説を立てていた学生の実験の場ともなった点。また、社会の課題解決に役立ちたいと考えている学生がいる事を知り、シニア世代も今の社会に希望もてたと感想を頂けた点。</p>

※ 自己評価の欄は、番号に○を付けてください。評価は、客観的自己診断です。

今後の事業展開	<p>「うすだの街づくりラボ」の月1回の継続的活動。</p> <p>「うすだの街づくりラボ」とは、臼田地域の健康や地域の生活課題について、気軽に話し合える場であり、また参加者の横の繋がりをつくれる場である。</p> <p>可能な範囲で自分達でできる小さなアクション（解決策）を考えていき、話すだけでは終わらない実践型の活動。まちづくりのアイデアを皆で出し合って、ちょっとした実験と一緒に進め、地域に役立つ活動を小さく始めて大きく育てることを目的としている。</p> <p>この活動を通して、地域との繋がり、仲間との出会い、社会参加への機会を気軽に作れる場を提供していく。</p>
---------	---